※令和４年度以降入学生用

学校番号	110

令和５年度　芸術科（音楽）

教科	芸術科	科目	音楽Ⅱ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	ＭＯＵＳＡ②　（株式会社　教育芸術社）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

■「歌唱」「器楽」「鑑賞」「創作」の４つの分野を年間通して学習します。
■学習の到達度は、実技テスト、演奏発表会、鑑賞レポート、創作作品、楽典・音楽史の筆記テストで評価します。
■音楽を通して様々なものを吸収し、音楽の良さや美しさを探究し感じたことを言語化すること、また、個性豊かに音楽表現を創意工夫する技能を身に付けることを目標とします。
■音楽が、生涯にわたり皆さんの心の支えとなり、生きていく力となることを願っています。

２　学習の到達目標

音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
(2) 個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。
(3) 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 （知識） ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。 （技能）	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもってどのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	主体的・協同的に表現及び鑑賞の学習に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	詩の内容を大切にして豊かな表現で歌おう	【歌唱】 ポピュラーミュージックを用いて、表現方法を工夫する 使用曲 ハナミズキ 糸 SUN One more time,One more chance	a：曲想と音楽の構造、及び、音楽の多様性について理解している。（知識） a：楽曲から感受したことを表現するための歌唱の技能を身に付けている。（技能） b：音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌詞の内容と関わらせてどのように表現し歌うか、創意工夫している。 c：歌う喜びを味わい、歌唱に関心を持って、主体的・協働的に取り組もうとしている。	演奏の聴取 ワークシート 楽典ペーパーテスト（楽語）	演奏の聴取 ワークシート	観察 ワークシート
	クラシックギター上級編（メロディーと伴奏を同時に演奏する）	【器楽】 ギターの奏法の復習 ・アポヤンド奏法 ・アルアイレ奏法 旋律の弾き方 ベース音(低音）の弾き方 分散和音の弾き方 （↑今回はアルペジオ奏法） 音色 使用曲 愛のロマンス	a：楽器の構造や音色の良し悪し、及び、奏法について理解している。（知識） a：メロディーを演奏する場合、低音を演奏する場合、分散和音を演奏する場合に必要な技能を身に付けている。（技能） b：旋律が生み出す雰囲気や特質などを知覚し、それらの働きを感受し、自己のイメージをもってどのように演奏するか、創意工夫している。 c：ギターの発展的な奏法に関心を持ち、演奏する学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。	演奏の聴取 ワークシート 楽典ペーパーテスト（楽語）	演奏の聴取 ワークシート	観察 ワークシート

※令和４年度以降入学生用

	グループディスカッションで音楽を深く味わう	【鑑賞】 音楽の持つ良さや美しさを深く味わい鑑賞する いちど鑑賞後、自ら感じたことを言語化しまとめてから、グループディスカッショをし、その後、再度同じ曲を鑑賞し、鑑賞1度目と2度目では、自身の曲の聴き方や捉え方がどのように変化したかを感受する。また、人により様々な感じ方や捉え方があることを知り、自身の感性の幅を広げる。 曲名を伏せて楽曲を鑑賞し、曲のイメージから「題名」を考える <u>使用曲</u> ・ショパンのピアノ独奏曲を用いて 「12 の練習曲」 （Op.10、 Op.25） より	a: 楽曲の構造と表現上の効果について理解している。（知識） b: 音楽を形作ってる要素を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気や特質を感受しながら、音楽の良さや美しさを味わい、想像力を働かせて、楽曲の題名を考えている。 C: 楽曲に関心を持ち、他者の感じ方や捉え方を知り尊重するとともに、鑑賞する学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。	ワークシート	ワークシート グループディスカッション	観察 ワークシート グループディスカッション
2学期	様々な国の言葉および日本の伝統的な歌唱に関心を持って歌う	【歌唱】 各国の言語の発音 発声 言葉をメロディーにどのように乗せるか <u>使用曲</u> からたちの花（日本語） 越後獅子から （歌舞伎の長唄） Tonight（英語） うつろな心（イタリア語） 春へのあこがれ（ドイツ語） ジュ・トゥ・ヴ（フランス語）	a: 曲想と音楽の構造、言葉の発音方法、及び、音楽と言葉の多様性について理解している。（知識） a：日本の伝統的な音楽の歴史について理解している。（知識） a:美しい言葉の発音を意識しつつ、楽曲から感受したことを表現するための歌唱の技能を身に付けている。（技能） b: 音楽を形作っている要素や、各国の言葉の発音を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌詞の内容と関わらせてどのように表現し歌うか、創意工夫している。 c: 様々な国の言語や伝統的な音楽に関心を持ち、歌う楽しさを味わい、主体的・協働的に取り組もうとしている。	演奏の聴取 ワークシート 楽典ペーパーテスト（楽語）	演奏の聴取 ワークシート	観察 ワークシート

※令和４年度以降入学生用

	リズムの重なり合いや曲の構成を意識し、創作する	【創作】 ボディーパーカッション 既存の曲を用いてグループでアンサンブルすることに慣れる 4/4 拍子8小節、2パート構成のボディーパーカッションの曲をグループで創作および発表 <u>使用曲</u> Plymouth Rock（既存の曲） および グループで創作活動	a: Plymouth Rock を練習し、基礎的なリズムを理解している。加えて、グループで創作した楽曲のリズムと奏法を練習し、理解している。（知識） a: 創意工夫を生かした創作表現をするために必要な、創作および演奏の技能を身に付けている。（技能） b: 自己のイメージを持ちつつ、他者のアイディアも尊重し取り入れながら、グループでより良いものを作り上げようと創意工夫している。 c: 創作演奏に関心を持ち、主体的・協働的に取り組もうとしている。	演奏の聴取 （個別聴取、および、グループ発表） ワークシート	演奏の聴取 （個別聴取、および、グループ発表） ワークシート	観察 ワークシート
	ミュージカルを知る	【鑑賞】 ミュージカルを鑑賞し、物語と音楽の結びつき、表現の特徴、作品および音楽の持つ良さ・美しさを深く味わい鑑賞する グループディスカッションも交え、感じ方や捉え方は人それぞれで、様々な角度から鑑賞することができることを知り、自身の感性の幅を広げる。 <u>使用作品</u> ウエストサイド物語 （1961 年版）	a: ミュージカルの起源・表現の特徴について理解している。（知識） b: 表現の特徴を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととのかかわりについて考え、音楽の良さや美しさを味わい鑑賞している。 C: 作品および楽曲に関心を持ち、他者の感じ方や捉え方を知り尊重するとともに、鑑賞する学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。	ワークシート	ワークシート グループディスカッション	観察 ワークシート グループディスカッション

※令和４年度以降入学生用

3学期	オペラのアリアを歌う	【歌唱】 イタリアオペラのアリアを歌う ・発音 ・発声 ・言葉をメロディーにどのように乗せるか <u>使用曲</u> ・私のお父さん ・だれも寝てはならぬ ・私が街を歩くと	a: オペラの構造を知り、オペラのアリアがどのような場面で効果的に歌われるか理解している。（知識） a: 楽曲に合った音楽表現をするために必要な歌唱の技能を身に付けている。（技能） b: 音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌詞の内容と関わらせてどのように表現し歌うか、創意工夫している。 c: 歌う喜びを味わい、歌唱に関心を持って、主体的・協働的に取り組もうとしている。	演奏の聴取 ワークシート	演奏の聴取 ワークシート	観察 ワークシート
	オペラを知る	【鑑賞】 オペラのアリアおよびオペラを鑑賞し、物語と音楽の結びつき、表現の特徴、作品および音楽の持つ良さ・美しさを深く味わい鑑賞する グループディスカッションも交え、感じ方や捉え方は人それぞれで、様々な視点から鑑賞することができることを知り、自身の感性の幅を広げる。 <u>使用作品</u> ・だれも寝てはならぬ （↑アリアのみ） ・ラ・ボエーム (2003 年、ミラノスカラ座オペラ)	a: オペラの起源・表現の特徴について理解している。（知識） b: 表現の特徴を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととのかかわりについて考え、音楽の良さや美しさを味わい鑑賞している。 C: 作品および楽曲に関心を持ち、他者の感じ方や捉え方を知り尊重するとともに、鑑賞する学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。	ワークシート	ワークシート グループディスカッション	観察 ワークシート グループディスカッション

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度